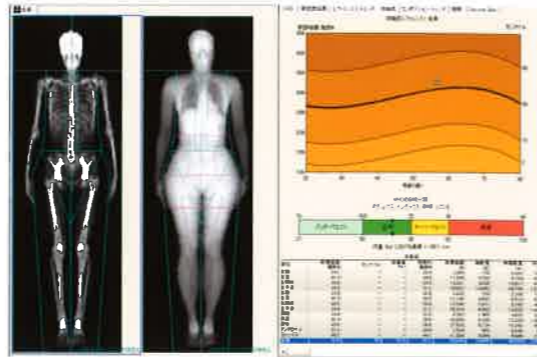


脂肪率などの体組成解析も可能。

ボディコンポジション

PRODIGY Primolは、筋骨系診断において、骨密度と体組成解析(脂肪率、筋肉量など)の両方の結果を同時に提供します。また、FDA(米食品医薬品局)の認可を受けた同性比較データベースを併用することも可能です。肥満症、メタボリック症候群、その他の疾患における体組成変化のモニタリングに威力を発揮します。



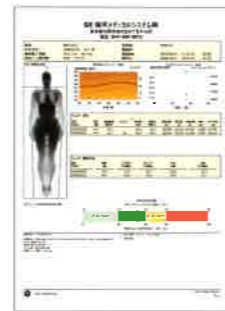
適応

栄養、運動および加齢は、脂肪組織と非脂肪組織に大きく影響します。ボディコンポジションは神経性拒食症、成長ホルモン欠乏症、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、麻酔、およびHIV感染(AIDS)などの筋肉を消耗させる疾患、肝臓病、心臓障害、およびセリアック病を含むさまざまな疾患の患者管理に重要な情報を提供します。病気および治療効果に関連した体組成変化のモニタリングは患者の万全な評価に貢献し、多くの研究や臨床で幅広く利用されています。

栄養と肥満症

DXA法による体組成測定は、総合的な栄養状態と、単純な体重測定では得られない栄養学的又は薬学的介入の効果に関する情報を提供します。

(DXA法は、脂肪組織と非脂肪量(筋肉)の相対的な増減率を正確に測定しダイエットを目的とした治療を評価する際の第一目標となります。このような脂肪および非脂肪組織の部位別変化は、DXA法以外の方法では容易に評価できません。)



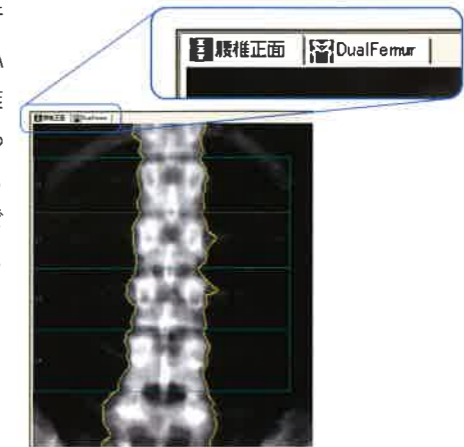
部位別解析の重要性

ボディコンポジションは、スポーツ医学分野においても部位別情報だけでなく全身に関係する情報を提供します。運動プログラムに参加した女性は、腕と脚との組織反応に著しい違いがあります。全身の解析では、全身の脂肪の減少と、非脂肪量組織の増加という運動で期待される結果が示されます。ただし、部位別解析を行うと、腕では脂肪が非常に減少して非脂肪組織は減少せず、脚では脂肪組織は増加せずに非脂肪が増加することが分かります。定期的に運動する女性においては、運動しない女性に多い、加齢にともなう腹部の脂肪増加がありません。この重要な発見は体組成の部位別解析なしでは見逃された可能性があります。運動選手は、非脂肪組織の比率を高めるようにトレーニングします。しかし、脂肪が少なすぎると、健康と運動能力の両方が低下します。運動選手によって、体組成の大きな変化は、摂食障害、無月経症、骨密度減少症または骨粗鬆症を含む重大な健康上の問題を示す指標になります。

結果の分析やレポート管理も効率的。

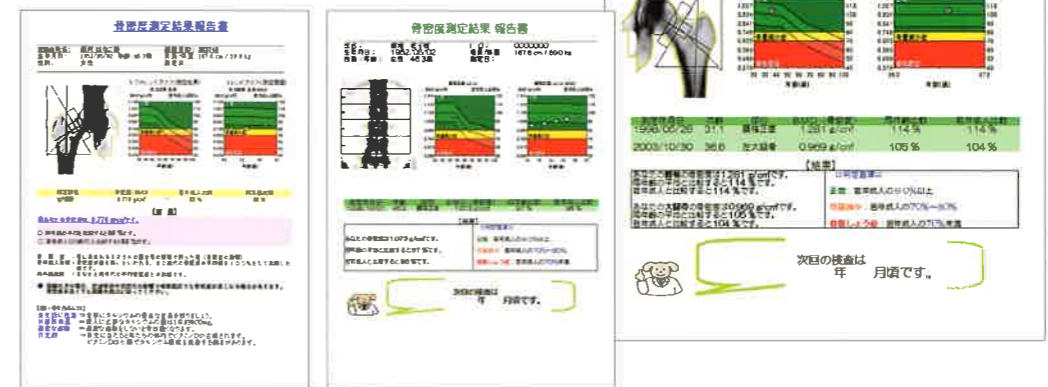
複数の測定結果を1画面で表示・解析できるOneVision機能

OneScan機能で一度に測定した腰椎・大腿骨を、一度に解析することができる機能がOneVision機能です。一般のDXA装置では、腰椎と股関節など複数の部位を測定した場合、腰椎を解析する時には腰椎のファイルを開き、股関節を解析する時には股関節のファイルを開くといった、煩雑な作業が必要です。PRODIGYが採用したOneVision機能は、タブの切り替えだけで複数の測定結果を表示し、解析することができる機能です。これによって解析のスループットがよりいっそう高まります。



使い勝手のよいレポート機能

レポートフォームをカスタマイズしたり、測定結果に合わせて表示するコメントの内容を編集したりすることができます(Composer機能)。もちろん、複数の部位を測定した場合には、測定結果を1枚に表示するように設定することも可能です(Composer機能/OneReport機能)。



臨床ニーズに対応する豊富なオプションソフトウェア

